

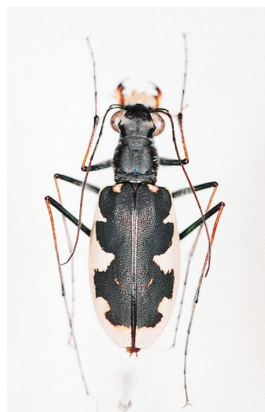
02 生きものと環境

これまでみてきましたように、大阪府には地域によって特徴的な生きものがすんでいます。ここでは、池や林、湿地などの「環境」と、そこにすむ生きものとの関係や特徴について、もう少し詳しくみてみましょう。

生きものは種類やグループごとに、それぞれ限られた環境に依存して生活しています。例えば、トンボ類は池など水のある場所を中心に活動しています。クワガタムシやカブトムシは、クヌギ林のような落葉広葉樹林らくようこうようじゆりんでみつかります。それは、彼らの生活様式、つまりエサのある場所や卵を産んだり育ったりする場所と関係があるのです。

もっと特別な例として、限られた湿地にだけすむハッチョウトンボやサギソウ、河口のヨシ原にしかすまないヒヌマイトトンボなどを考えてみましょう。これらの生きものは、大阪府レッドデータブックのなかで絶滅のおそれがある種としてあげられています。その原因は、彼らの生活場所である“湿地”や“河口のヨシ原”といった環境そのものが無くなりつつあるからです。限られた環境にしかすめない生きものにとって、その環境が無くなったり悪化すると、絶滅が心配されるのは当然の結果といえるでしょう。

大阪府レッドデータブックで絶滅種ぜつめつしゆとしてあげられたカワラハンミョウやヨドシロヘリハンミョウ(ともにハンミョウの仲間)は、それらがすんでいた大きな砂浜や河口干潟ひがたの環境が無くなったり、また大幅に減ってしまったうえ、環境汚染の影響なども加わって、大阪府からは絶滅してしまった種類なのです。



9. カワラハンミョウ